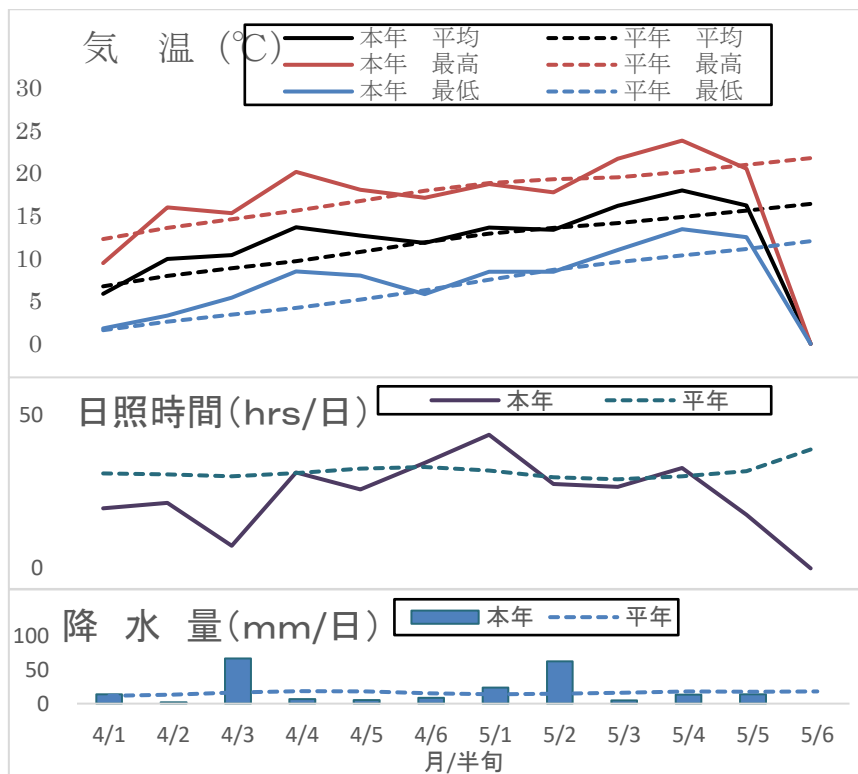


～播種・田植状況は概ね平年並み 乾田直播は雑草防除がキモ～

～乾田直播は 出芽状況をよく見て除草剤を散布しよう！～

1 令和7年の気象経過（古川アメダス）



◆5月22日発表 東北地方の1か月予報(5月24日～6月23までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率50%，平年並みの確率30%，低い確率20%。
- ・降水量は、多い若しくは少ない確率30%，平年並みの確率40%。
- ・日照時間は、多い若しくは少ない確率30%，平年並みの確率40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 05/24～06/23	20 30 50
		1週目 05/24～05/30	40 40 20
		2週目 05/31～06/06	20 30 50
		3～4週目 06/07～06/20	20 30 50
降水量	東北地方	向こう1か月 05/24～06/23	30 40 30
日照時間	東北地方	向こう1か月 05/24～06/23	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 播種・田植の状況

- ・播種盛期は、平年より1日遅い4月12日であった（概ね平年並み）。
- ・播種後の苗質は、4月中旬の低温で出芽に時間を要したものも見られたが、その後は概ね順調に生育した（宮城県みやぎ米推進課調べ）。
- ・田植盛期は、平年より1日遅い5月12日であった（概ね平年並み）。
- ・5月15日現在の宮城県全体の田植進捗率は、66.3%となっている。

播種期（県全体）

区 分	播種始期 (5%)	播種盛期 (50%)	播種終期 (95%)
本 年	4月4日	4月12日	4月21日
前 年	4月3日	4月11日	4月21日
平 年	4月2日	4月11日	4月21日
平年差	2日遅い	1日遅い	並

田植状況（県全体）

区 分	田植始期 (5%)	田植盛期 (50%)	田植終期 (95%)
本 年	5月5日	5月12日	－
前 年	5月3日	5月12日	5月23日
平 年	5月4日	5月11日	5月22日
平年差	1日遅い	1日遅い	－

3 移植後の管理

（1）水管理

- ・田植後の苗の活着には、気温よりも水温が大きく影響する。
- ・強風や低温の場合は水深5～6cmの深水、晴天や高温の場合は水深2～3cmの浅水で管理し、苗の活着を促す。

（2）雑草防除

- ・除草剤散布後7日間は落水や畦畔からの漏水を防ぎ、かけ流しかんがいは行わない。
- ・近年は移植後に高温が続く影響で、雑草の生育も早まっている。そのため、防除のタイミングが遅れて、ノビエが大発生してしまうような事態も発生している。雑草の生育状況をよく観察し、除草剤の説明書をよく読んで早めに散布する。

4 乾田直播栽培における今後の管理

（1）出芽がそろわないときの技術対策



【4/8 播種 ササニシキ フラッシング有 葉数3.0L】

- ・本年は、降水量が比較的多く、発芽は概ね順調であった（降雨のため、播種日が遅延した事例も見られた）。
- ・発芽が不揃いの場合は、ほ場全体に薄く水が行き渡るまで（潤土管理）入水を続け（フラッシング）、種子に水分を補給する。
- ・潤土管理の期間は3～7日程度で、出芽が揃ったら潤土管理は終了とする。

(2) 雑草防除（除草剤散布のタイミング）

①播種～出芽前処理（除草剤の第1回目の散布）のタイミングはいつだったか？

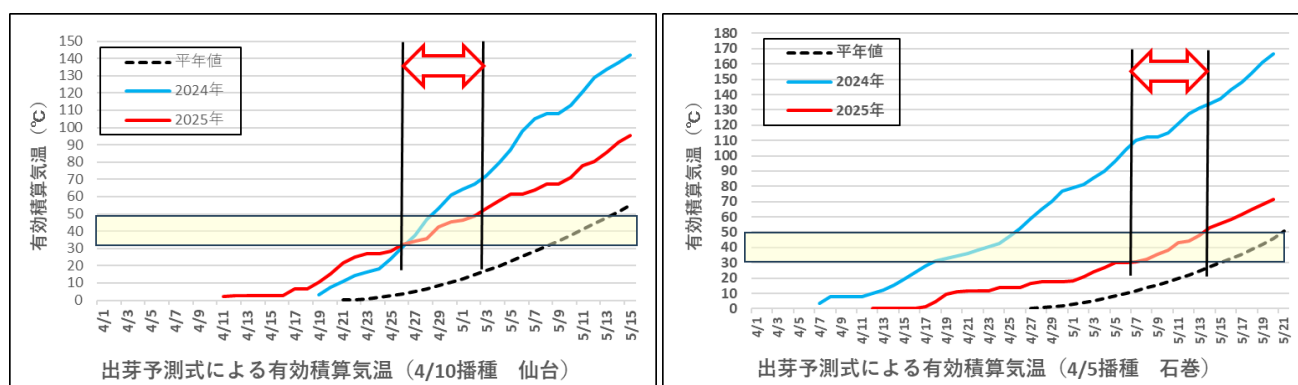
- ・この時期の除草剤散布は、現在発生している雑草を枯らす「非選択性茎葉処理剤」と、これから発生する雑草を抑える「土壌処理剤」の混和处理が一般的である。

○非選択性茎葉処理剤；ラウンドアップマックスロード、タッチダウン iQ、クサクリーン 等

○土壌処理剤；マーシェット乳剤、サターンバアロ乳剤 等

- ◆出芽前処理のタイミングは、出芽予測式による有効積算気温（播種翌日からの日平均気温を加算していったもの。ただし、日平均気温が 11.5℃以下の場合はカウントしない）で 30℃～50℃が目安となる）。

- ・それによれば、今年の散布適期は、仙台（4/10 播種の場合）では 4 月 26 日～5 月 4 日、石巻（4/5 播種の場合）では 5 月 6 日～16 日頃であった（下図）。



②出芽後～入水前（第2回目の散布）処理

- ・出芽後、雑草の発生が多い場合は、入水前に選択性茎葉処理剤を散布する。草種がノビエのみの場合は「クリンチャーEW」，ノビエの他に広葉雑草も含まれる場合は「クリンチャーバスME液剤」や「ノミニー液剤」を使用する。これらの剤は、ノビエ5葉まで適用がある。
- ・スタム乳剤 35 も有効だが、ノビエに対して3葉までしか適用が無いので注意する。

③入水後（第3回目の散布）処理



- ・入水時期（湛水管理を始める時）の目安となる稲の葉齢は、1.5 葉期頃である。最初は苗が短く、全部水没すると枯死するので、浅水管理とする。
- ・苗の生育が揃い、ほ場からの漏水が無いことを確認したら、5 cm 程度の水深を確保したうえで「初中期剤」を散布する。散布後の管理は、移植栽培と同様とする。